



# Appleと教育

## 教育機関向けデータと プライバシーに関する概要

### 目次

- ・ [生徒のプライバシーに関するAppleの取り組み](#)
- ・ [Apple School Managerと管理対象Apple Account](#)
- ・ [スクールワーク](#)
- ・ [クラスルーム](#)
- ・ [管理対象Apple Accountと共有iPad](#)
- ・ [iCloudとデータセキュリティ](#)
- ・ [CloudKitと他社製アプリ](#)
- ・ [位置情報サービスと紛失モード](#)
- ・ [国際的なデータ移転](#)
- ・ [プライバシーの概要 \(保護者向け\)](#)
- ・ [関連資料](#)

Appleのテクノロジーは40年にわたり、教師のみなさんの教え方と生徒たちの学び方の選択肢が広がるよう支援してきました。Appleのパワフルなツールとアプリは、魅力的な学習体験を生み出し、生徒一人ひとりの潜在的なクリエイティビティを引き出しています。そしてAppleは、生徒が学習体験を通じて作成、保存、アクセスするデータを保護するためのセキュリティとプライバシーがどれだけ重要であるかも理解しています。

セキュリティとプライバシーは、Appleのハードウェア、ソフトウェア、サービスすべての設計の基礎となっています。Appleは、体験のあらゆる側面にセキュリティとプライバシー保護が組み込まれるよう、統合的なアプローチをとっており、その中で、教職員や生徒など、教育機関におけるすべてのユーザーのプライバシーとセキュリティに配慮しています。

Appleは、Apple School Manager、管理対象Apple Account、共有iPadなど、教育のための機能やサービスも設計、開発しています。これらの機能へも同様の統合的なアプローチをとり、さらに生徒や教育機関に特有のセキュリティとプライバシーのニーズを考慮して設計しています。

本概要では、管理対象Apple Account、関連するAppleの教育向け機能およびサービスにおいて、生徒のデータとプライバシーがどのように扱われているかを取り上げています。教育機関のみなさんは、生徒のデータの保護をAppleがどのように行っているかを保護者の方々に説明するためにこの概要を使うことができます。

## 生徒のプライバシーに関するAppleの取り組み

Appleが広告やマーケティングに使用する目的で、生徒の情報を追跡、共有、販売することは決してありません。Eメールの内容やウェブの閲覧履歴にもとづいて生徒のプロファイルを構築することもありません。また、教育向けサービスを提供する目的以外で、生徒の個人情報を収集、使用、開示することはなく、生徒の個人情報を販売したり、生徒向けの広告を目的として開示したりすることもありません。

Appleでは、取り組みのさらなる証として、[Appleプライバシーポリシー](#)および[Apple School Manager契約](#)を作成し、ユーザーの情報を収集、使用、開示、転送、保存する方法を規定しています。また、Appleは[Student Privacy Pledge \(生徒のプライバシーを保護する誓約\) \(英語\)](#)に署名しています。

## Apple School Managerと管理対象Apple Account

Appleは、あらゆる規模の学校や教育機関に対して、iPadやMacの導入を支援するための様々なサービスを提供しています。こうしたサービスは、デバイスの導入前から導入後まで教育機関と生徒のデータを確実に保護するよう、セキュリティとプライバシーを念頭に置いて設計されています。

Apple School Managerは、IT管理者が学校にiPadとMacを導入する際に必要とする機能をすべてそろえた、無料のウェブベースのサービスです。Apple School Managerを使うと、コンテンツの購入、モバイルデバイス管理(MDM)ソリューション内での自動デバイス登録の設定、生徒と教職員のアカウントの作成、スクールワークアプリおよびクラスルームアプリ用のクラス名簿の設定、「生徒の進捗状況」機能の有効化、指導や学習のためのアプリやブックの管理などができます。

Apple School Managerの中心機能は、学校が管理する管理対象Apple Accountの作成です。管理対象Apple Accountを利用すると、学校側が必要とする管理機能を維持したまま、生徒はiCloud Drive、フォトライブラリ、バックアップ、スクールワークアプリ、共有iPadにアクセスすることができます。管理対象Apple Accountは教育での使用のみを目的として設計されています。

生徒にデバイスを提供している学校で、デバイスが教育以外の目的に使用されることがないように、Appleは管理対象Apple Accountの特定の機能を無効にしています。生徒は、App Store、Apple Books、Apple TV、Apple Podcast、Apple Musicでの購入はできません。また、Apple Pay、「探す」機能、iCloudメール、HomeKit、iCloudキーチェーンも無効になっています。FaceTimeとメッセージアプリもデフォルトでは無効になっていますが、学校のIT管理者が有効にできます。

Apple School Managerを使うと、以下の方法ですべての生徒や教職員のみさんの管理対象Apple Accountを自動的に作成できます。

フェデレーション認証を使って、Apple School Managerを学校のMicrosoft Entra ID、またはGoogle Workspaceに接続することができます。そのため、ユーザーは既存のユーザー名とパスワードを使ってAppleのサービスにサインインできるようになります。Microsoft Entra IDやGoogle WorkspaceはIDプロバイダ(IdP)です。ここでは、Apple School Managerで利用できるアカウントのユーザー名とパスワードが含まれています。フェデレーション認証は、Security Assertion Markup Language (SAML) を使って、Apple School ManagerをMicrosoft Entra IDまたはGoogle Workspaceに接続します。データがEntra IDやGoogle Workspaceに書き込まれることはありません。

校務支援システム(SIS)、または学校のディレクトリサービスから書き出したCSVファイルを使って、必要なデータのみを読み込むこともできます。ソースからの情報は読み取り専用にした上で、各ユーザーアカウントの作成に使用されます。管理対象Apple Accountの識別子や関連付けられたパスワードなどの追加情報は、Apple School Managerのアカウント情報に追加され、SISのデータに書き込まれることはありません。

管理対象Apple Accountは、Apple School Managerで手動で作成することもできます。

各ユーザーアカウントには以下の関連情報が含まれます。これらの情報はアカウントリスト内、またはアカウントを選択した時にも表示されます。

- アカウント固有の英数字のID
- 姓、ミドルネーム、名
- 学年(入力された場合)
- 所属クラス
- Eメールアドレス(入力された場合)
- 役割
- 場所
- ソース
- 作成日
- 変更日

管理対象Apple Accountは、教育機関が作成して割り当てるので、組織内の全ユーザーに対して、パスワードのリセット、アカウントの検査、役割の定義を簡単に行うことができます。IT管理者がアカウントを検査したりパスワードをリセットしたりすると、Apple School Managerによってそのアクションが記録され、アクティビティの記録として残ります。

管理対象Apple Accountのパスワードは、数字4桁のシンプルなものから、英数字を組み合わせた複雑なものまで、幅広いオプションをサポートしています。アカウントを最初に読み込んだ時や作成した時は、Apple School Managerによって仮パスワードが作成されます。この仮パスワードは、当該アカウントのユーザーが管理対象Apple Accountで初めてサインインするためのものです。初回サインイン時にパスワードを変更する必要があります。仮パスワードから生徒が選択したパスワードに変更されたあとは、パスワードがApple School Managerに表示されることはありません。生徒は、個人所有のデバイスなど、学校が管理していないデバイスからサインインして、課題にアクセスすることもできます。学校が管理していないデバイスを使用するには、管理対象Apple Account、パスワード、IT管理者から付与された6桁の確認コードを使用してサインインします(IT管理者はApple School Managerを使用して確認コードを取得します)。この6桁の確認コードの有効期間は1年間です。

管理対象Apple Accountがフェデレーション認証で作成された場合、そのパスワードや関連するすべての設定(パスワードオプション、多要素認証、パスワードのリセットなど)は、Microsoft Entra IDまたはGoogle Workspaceのみによって管理されます。

学校が管理対象Apple Accountを削除すると、そのアカウントに関連するすべての情報が30日以内にAppleのサーバから削除されます。また、学校がApple School Managerの利用を停止する場合、生徒のデータは180日以内にすべて削除されます。

## スクールワーク

スクールワークアプリを使用すると、教師のみなさんは教材を生徒に配布したり、アプリやブックの中での生徒の進捗状況をより詳しく把握したりできるようになります。スクールワークは、IT管理者がApple School Managerで設定した生徒とクラス名簿の情報を使用します。

学校は「生徒の進捗状況」機能を有効にするかどうかをApple School Managerで選ぶことができます。この機能を利用すると、学校の管理下で生徒に割り当てられたアクティビティ(ブックの特定の章を読む、方程式を解く、小テストを受けるなど)の進捗状況を、プライバシーとセキュリティを保護しながら教師のみなさんに共有できます。このようなデータを利用することで、教師だけではなく生徒自身も、与えられたアクティビティの進捗をより詳しく把握することができます。そして、教師のみなさんは必要に応じて、生徒に追加のアクティビティを用意したり、さらなるサポートを行ったりすることができます。

教師のみなさんにどのような進捗データが共有されるかは、進捗報告アプリがどのようなデータを生成するかによって決まります。これはアプリのデベロッパによって定義され、例えば、アクティビティの所要時間(開始時刻と終了時刻から算出)、進捗率、小テストの点数、使用されたヒントのほか、単語数や獲得ポイントなどの数値や、はい/いいえ、正しい/誤りなどのバイナリ値があります。少なくとも、進捗報告に対応するアクティビティはすべて所要時間のデータを送信します。

「生徒の進捗状況」機能は、生徒のプライバシーを保護するように設計されています。学校がApple School Managerで「生徒の進捗状況」機能を有効にしても、教師のみなさんがスクールワークアプリを使って課題として個別に割り当てたアクティビティに関する進捗データしか共有されません。また、共有が行われるのは、学校が作成した管理対象Apple Accountを生徒が自分のデバイスで使用している時に限られます。教師が割り当てたものではないアクティビティに関する生徒の進捗情報は、共有も表示もされません。例えば、教師がApple Booksの『ロミオとジュリエット』の序章を読むよう生徒たちに課題を出した場合、ある生徒が『華麗なるギャツビー』も読んでいたとしても、その生徒と教師が確認できるのは、教師が割り当てた『ロミオとジュリエット』の進捗のみです。透明性を確保するために、進捗を報告する機能が有効になっている場合は、進捗状況が記録されていることを示す通知が生徒の画面に表示されます。

学校のIT管理者は「生徒の進捗状況」機能のほか、Apple School Managerで「スクールワークの改善」機能を有効にすることもできます。この機能を有効にすると、Appleは機械学習などの技術を使用して個人が特定されない状態でスクールワークのデータを処理し、アプリの改善に役立てることができます。例えば、アプリの利用傾向を把握したり、ユーザー体験をカスタマイズしたり、教育のための新機能を開発したりするために、Appleがスクールワークのデータを利用する場合があります。「スクールワークの改善」を有効にすると、透明性を確保するために、生徒や教師のみなさんが管理対象Apple Accountを使用して初めてスクールワークにアクセスした時に、通知が画面に表示されます。

## クラスルーム

クラスルームアプリを使用すると、教師のみなさんは教室内の生徒のiPadを管理でき、授業中に生徒に代わってアプリやリンク先を開くことができますようになります。クラスの全生徒と書類を簡単に送受信できる上、生徒一人ひとりの画面を表示して作業状況を見守ることができます。

クラスルームで生徒のiPadを管理できるのは授業中のみで、授業が終わったあとはデータは保存されません。教師と生徒が同一のWi-Fiネットワークにサインインできる距離にいて、クラスのセッションがアクティブになっている必要があります。教室にいない生徒のデバイスを教師が管理したり、閲覧したりすることはできません。透明性を確保するために、授業中に「画面を表示」が有効で生徒の画面が閲覧できる状態になっている場合には、そのことがわかるように生徒の画面の上部に通知が表示されます。教師のみなさんが生徒の画面を閲覧できないようにしたい場合、学校は「画面を表示」を無効にすることもできます。

## 管理対象Apple Accountと共有iPad

1台のiPadを複数の生徒で共有する場合でも、生徒は管理対象Apple Accountでログインし、すぐに自分のアプリ、コンテンツ、設定にアクセスし、利用することができます。そのため、同じiPadを複数の生徒で使用していても、生徒たちは個別の学習体験を確保できます。

生徒が共有iPadにサインインすると、AppleのIDサーバによって自動的に管理対象Apple Accountの認証が行われます。生徒がそのデバイスを以前に使用したことがない場合は、その生徒用の新しいホームディレクトリとキーチェーンが提供されます。生徒のローカルアカウントが作成され、ロックが解除されると、デバイスは自動的にiCloudにサインインします。続いて、その生徒の設定が復元され、書類とデータがiCloudから同期されます。

生徒のセッションが有効でデバイスがオンラインになっている間は、作成または編集された書類とデータがiCloudに自動的に保存されます。さらに、バックグラウンドで同期する仕組みによって、変更内容は生徒のサインアウト後、必ずiCloudに保存されます。

## iCloudとデータセキュリティ

生徒が書類を作成したり、授業の課題に取り組んだり、クラスのアクティビティに参加したりする時に重要なのは、データが安全に保存され、デバイスとiCloudの両方で常に保護されていることです。

iCloudを使用すると、ユーザーの書類、連絡先、メモ、ブックマーク、カレンダーの予定、リマインダーは自動的にiCloudに保存されるので、iOSデバイスとMac、およびMacまたはWindowsパソコンのウェブブラウザから使用するiCloud.comでそれらの情報にアクセスできます。管理対象Apple Accountがあれば、こうしたサービスを200GBの無料のiCloudストレージとともにデフォルトで利用できます。ユーザーがiCloudにサインインすると、iCloud Driveへのアクセスがアプリに許可されます。ユーザーは「設定」の「iCloud」で各アプリのアクセス権を管理できます。

iCloudは業界標準のセキュリティ対策に従って構築されており、データ保護のための厳格なポリシーを採用しています。iCloudはユーザーの情報を暗号化して転送し、暗号化された形式で保存します。また、暗号鍵はAppleのデータセンターで保護します。これにより、ユーザーの情報のセキュリティを保護しています。Amazon Web Servicesなど、他社のデータセンターに保存されたデータを処理する場合は、安全なサーバ上で実行されているAppleのソフトウェアだけが、必要な処理を実行する間に限り、暗号鍵にアクセスできるようになっています。プライバシーとセキュリティをさらに強化するため、Appleの多くのサービスではエンドツーエンドの暗号化が使用されています。したがって、ユーザーの情報には、ユーザー本人のみが、自分のApple Accountでサインインした信頼できるデバイスでのみアクセスできます。

Appleは、ISO 27001およびISO 27018認証を取得しています。これは、パブリッククラウド環境で個人情報を保護する対策を講じた情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) を実装済みであることを実証するものです。AppleのISO規格への準拠は、英国規格協会 (BSI) により認定されています。セキュリティ認証について詳しくは「[Appleのインターネットサービスのセキュリティ認証](#)」を、iCloudのセキュリティについて詳しくは「[iCloudのデータセキュリティの概要](#)」をご覧ください。

## CloudKitと他社製アプリ

他社製アプリは、現代の学習環境において不可欠な要素です。生徒が他社製アプリを使う場合でも、データの保存や取得を同じようにシームレスに体験できるように、AppleはCloudKitを開発しました。CloudKitは、他社のデベロッパがデータをiCloudに保存して同期するために使用できるフレームワークです。

CloudKitを使用するアプリでは、生徒は管理対象Apple Accountで自動的にサインインできます。つまり、新たにアカウントを作成したり、追加の個人情報を提供する必要はありません。新しいユーザー名やパスワードを覚えなくても、アプリの中にある自分の最新情報にいつでもアクセスできます。デベロッパがアクセスできるのはユーザー固有の識別子だけで、生徒の管理対象Apple Accountにはアクセスできません。

デベロッパがCloudKitを使用しているかどうかに関わらず、他社製アプリによって生徒に関するデータが収集される可能性があることを認識しておくことが重要です。他社製アプリを使用する場合、学校には適用されるすべての法令を遵守する責任があります。学校は、他社製アプリの使用条件、ポリシー、慣行を確認し、生徒からどのようなデータが収集される可能性があるか、収集したデータがどのように使われているか、また、保護者の同意が必要かどうかについて把握しておく必要があります。

App Storeでは、ユーザーのプライバシーとセキュリティを保護するために作成された明確なガイドラインに同意することを、アプリのデベロッパに義務付けています。また、スクールワークアプリで生徒の進捗を報告するためのClassKitというAppleのフレームワークを採用しているすべてのデベロッパに対して、追加の要件を課しています。ClassKitを採用するデベロッパは、App Storeでアプリを公開する際のAppleの標準的な要件に加えて、ClassKitの使用は教育向けサービスを提供する場合に限るという要件に準拠する必要があります。アプリ内で行動ターゲティング広告を表示することは禁じられています。また、データのあらゆる使用に関して、適切なプライバシーポリシーを定める必要があります。

Appleのガイドラインに違反するアプリが見つかった場合、デベロッパはその問題に対処しなければなりません。対処がなされない場合、そのアプリはApp Storeから削除されます。

## 位置情報サービスと紛失モード

生徒が自分のデバイスでアプリやサービスを使用している時、個々のアプリやアプリ内の操作によっては、位置情報サービスを有効にするように求められることがあります。Appleは、位置情報データの管理方法や、アプリやクラウドサービスとのデータの共有方法について、ユーザーが細かく設定できるようにしています。デフォルトでは位置情報サービスはオフになっていますが、学校が許可する場合は、生徒がオンに変更できます。

マップ、天気、カメラなど、位置情報を活用する内蔵アプリでは、位置を示すデータの収集と使用について、必ずユーザーに許可を求めよう設計されています。Appleが収集する位置情報データは、生徒を個人的に特定する形で収集されることはありません。学校で導入したその他のアプリでも、位置情報データにアクセスするための許可をユーザーに求める必要があります。生徒は、Appleのすべてのお客様と同様に、位置情報サービスの利用許可を求める個々のアプリに対して、アクセスを許可したり、無効にしたりすることができます。

アクセスの許可設定は、アプリが要求する位置情報の用途に応じて、許可しない、使用中のみ許可、常に許可のいずれかに設定できます。アクセスを許可しないと選択した場合も、「設定」からいつでも変更することができます。また、常に位置情報を使用する許可を得たアプリがバックグラウンドモードで位置情報を利用する場合、使用許可の再確認をユーザーに求めます。ユーザーは必要に応じてアプリへの許可を変更できます。アプリが位置情報サービスを利用している場合、メニューバーに矢印のアイコンが表示されます。

ユーザーの位置情報は、Appleの機能やサービスを通して、いつも学校に提供されるというわけではありません。しかし、紛失や盗難に遭ったデバイスを学校が回収する時には位置情報サービスを利用できます。学校のデバイスであれば、MDM管理者がリモートで紛失モードを有効にできます。紛失モードが有効になると、現在のユーザーはログアウトされ、デバイスのロックを解除できなくなります。また、デバイスの画面にはメッセージが表示されます。このメッセージは、管理者がカスタマイズすることができ、例えば、デバイスが見つかった時の連絡先として電話番号を表示することができます。デバイスが紛失モードになると、管理者はデバイスに対して現在の位置情報をMDMサーバに送信するようリクエストできます。管理者がデバイスの紛失モードをオフにした場合もデバイスの位置情報が送信され、ユーザーにはこのアクションが通知されます。

## 国際的なデータ移転

Appleは、学習に最適なツールを教師のみなさんが教室で利用できるように、世界中の学校と協力しています。また、Appleのサービスの使用をサポートするために、データ処理要件を確実に満たすよう政府当局とも協力しています。

Apple School Manager、管理対象Apple Account、iCloudを使用する場合、個人情報在国外に保管されることがあります。保管場所に関わらず、データの保管には共通の厳格な標準と要件が適用されます。

法律により要求される場合、Appleは、あらゆる国際的なデータ移転が、十分な保護レベルを確実に備えている国、適用される法律(EUの標準的契約条項など)の規定に従って適切な保護措置を講じている国、または特例措置の適用対象となっている国に対してのみ行われるようにします。標準的契約条項については、Apple School Manager契約に記載されています。

## プライバシーの概要 (保護者向け)

生徒の情報がどのように利用されているかを理解するためには、透明性が重要です。保護者からのよくある質問への対応については「[保護者のみなさんのためのプライバシーに関する概要](#)」を参照してください。この資料では、Appleの教育向けサービスとアプリを学校が利用する際に、生徒の情報がどのように収集、使用、保存されるかを取り上げています。学校コミュニティのみなさんへの説明にご利用ください。

## 関連資料

Appleにとって何よりも大切なのは、学校と生徒のみなさんから信頼を得ることです。そのため、私たちは生徒のプライバシーを尊重し、強力な暗号化と、すべてのデータの取り扱いを規定した厳格なポリシーの運用によってプライバシーを保護しています。

詳細については、以下の関連資料とウェブページを参照してください。また、プライバシーについて質問がある場合は、[apple.com/jp/privacy/contact](https://apple.com/jp/privacy/contact)から直接お問い合わせください。

- 教育現場におけるApple製品のプライバシーとセキュリティについて：  
[support.apple.com/HT208525](https://support.apple.com/HT208525)
- 保護者のみなさんのためのプライバシーに関する概要：  
[apple.com/jp/education/docs/Privacy\\_Overview\\_for\\_Parents.pdf](https://apple.com/jp/education/docs/Privacy_Overview_for_Parents.pdf)
- Appleと教育、ITと導入：  
[apple.com/jp/education/it](https://apple.com/jp/education/it)
- Apple School Manager契約：  
[apple.com/legal/education/apple-school-manager/ASM-JP-JP.pdf](https://apple.com/legal/education/apple-school-manager/ASM-JP-JP.pdf)
- Apple School Managerユーザーガイド：  
[support.apple.com/guide/apple-school-manager](https://support.apple.com/guide/apple-school-manager)
- 教育機関向けApple導入ガイド：  
[help.apple.com/deployment/education](https://help.apple.com/deployment/education)
- Appleプラットフォームのセキュリティ：  
[apple.com/business/docs/iOS\\_Security\\_Guide.pdf](https://apple.com/business/docs/iOS_Security_Guide.pdf)
- プライバシーに関するAppleの取り組み：  
[apple.com/jp/privacy](https://apple.com/jp/privacy)

